

イシイルカ 太平洋・日本海・オホーツク海

Dall's Porpoise, *Phocoenoides dalli*

管理・関係機関

水産庁、漁業道県

最近の動き

東日本大震災以後、操業が再開されたものの、2014 年の捕獲は前年と同様に低レベルだった。

漁業の特徴

北海道、青森県、岩手県及び宮城県で知事許可漁業である突きん棒で捕獲されている。この漁業による本種の捕獲頭数は、現在、我が国におけるいか類の捕獲頭数の中で最大である。捕獲頭数は岩手県船が卓越している。操業は 5 ~ 6 月と 9 ~ 10 月に北海道沿岸の太平洋・日本海・オホーツク海で、11 ~ 4 月に三陸沖で行われる。

生物学的特性

- イシイルカ型とリクゼンイルカ型の 2 型
- 体長・体重：2.1 m・220 kg
- 寿命：15 ~ 20 歳（詳細は未解明）
- 性成熟年齢：雌 3 ~ 4 歳、雄 4 ~ 6 歳
- 繁殖期・繁殖場：晩春から夏、オホーツク海（成熟雌は 1 ~ 2 年毎に出産）
- 索餌期・索餌場：周年・北海道沿岸、オホーツク海、三陸沖
- 食性：ハダカイワシ類、スケトウダラ
- 捕食者：シャチ

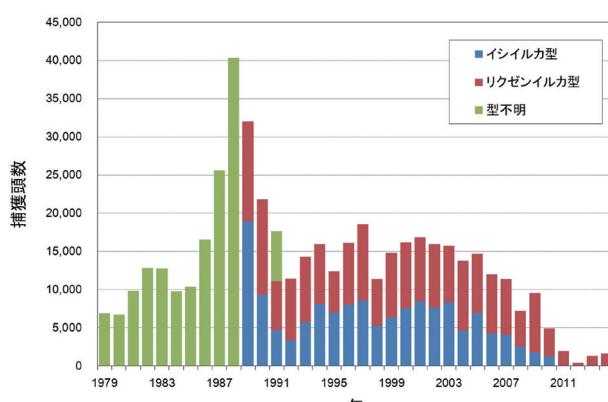
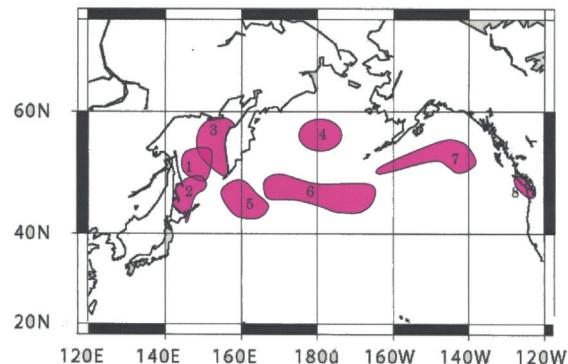
1987 年以前は年間 2 万頭以下の捕獲であったが、商業捕鯨モラトリアム以降は鯨肉の流通不足を補うためか、1988 年に捕獲頭数が 4 万頭以上へ急増した（この年までは、2 つの型が統計上区別されていない）。その後は 1993 年の捕獲枠導入によって両型合計 1.5 万頭程度の水準が続いたが、近年は浜値低迷と燃油高騰などで操業が縮小し捕獲も 1 万頭程度で推移していた。また、東日本大震災の影響で 2011 年以降の捕獲はさらに減少した。したがって、近年の捕獲頭数が少ない状況は経済的要因や震災の影響が考えられる。

利用・用途

刺身、煮物など

資源状態

両型の資源水準については、調査海域の制限や操業形態等の変化があり、調査継続中である。近年は、捕獲頭数が変動あるいは減少しているが、上記経済的な理由や震災の影響もあり、資源動向は依然横ばいと考えられる。



管理方策
鯨類の再生産率は 1 ~ 4% と経験的に考えられている。出産間隔から本種の再生産率が高い方（3 ~ 4%）であることがうかがえる。これに捕獲実績等も加味して 1993 年に水産庁が捕獲枠を設定した。また、道県知事による操業海域の許可制、漁期の設定が行われている。水産庁は 2007 年に本種の管理に PBR (Potential Biological Removal) の概念を適用した。

資源評価のまとめ
■資源動向は横ばい。 ■資源水準は調査継続中。

イシイルカ（太平洋・日本海・オホーツク海）の資源の現況（要約表）	
資源水準	調査中
資源動向	横ばい
世界の捕獲量（最近 5 年間）	—
我が国の捕獲量（最近 5 年間）	0.04 万～ 0.49 万頭 平均：0.24 万頭 (2010～2014 年)
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—

管理方策のまとめ
■操業海域の許可制。 ■体色型別の捕獲枠の設定（2014/15 年漁期でイシイルカ型 6,524 頭、リクゼンイルカ型 6,404 頭）。 ■漁期の設定。 ■捕獲統計の集計。 ■PBR の導入。